



小池 光選

二十年の乗馬キツパリやめる朝 愛馬ルナの目
うるみくるなり 前橋市 高橋 香

【評】ある日突然、思い立って乗馬クラブへ。
それから二十年、熱中した。引退する決心を
したのはたぶん年齢の問題か。もう乗るのは
あぶないのである。さよならルナ、元気でね。
尻もちをつきしままで確める頭、腰、手首、
骨折はなし 奥州市 佐藤 茂美

【評】年を加えると誰しもしばしば転倒する。
骨折が怖い。尻もちをついたポーズのままで
我が身を点検。頭異常なし、腰異常なし、手
首異常なし。確認してそれから立ち上がる。
「4番じゃ徳島行は」少女らが楽しそうです田
舎の駅で 鳴門市 楠井 花乃

【評】少女らは、これから大都会徳島に遊び
にゆくのである。「4番じゃ」の「じゃ」が
いい。鳴門弁だろう。臨場感が立つ。
お別れに卒寿の義兄のくちづけをひたいに受け
るひつぎの姉よ 東京都 森 ルミ

またひとり腰痛者出でて危ふかりわれら八十代
の卓球クラブは 西条市 山本美知子
雁首をそと突き出し身構へるギロチン想ふ床
屋の洗髪 角田市 豊岡 浩一

救急車ではこぼれしときに着てた物 洗ひて干
せば靴下に穴 仙台市 加藤 祐子
誰を想い名付けられしかアンジェラの名を持つ
八重の百合は美し 鎌倉市 荒井美知子
「戦争が終わったよ」ってへたり込む母にすが
りし幼き記憶 久喜市 後藤 直之
名の知らぬ国が続々あらはれて調べるも楽しワ
ールドカップは 富山県 松田 敦子

栗木 京子選

さくらんぼ色のコップを愛用す術後間もない水
だけの日々 宮崎市 時任未知子

【評】まだ水しか飲めない日々。点滴で栄養
を摂取しているのかもしれない。不安な気持
ちをコップの「さくらんぼ色」が励ましてく
れる。色彩が及ぼす力を再認識する一首。
飲み会の会費の紙幣に挟まりいしおみくじ返す
大吉なれば 東京都 伊藤 直司

【評】大吉のおみくじを札の間に入れていた
人。お守りのつもりだったのか。うつかりし
ておみくじと支払ってしまった。幸運の受
け渡しをするようで楽しい歌になった。
吾は蜘蛛が姉は百足が苦手だと言ひつつ見上ぐ
る実家の解体 熊本市 甲賀 亨子

【評】蜘蛛や百足がよく出現する家だったの
だろう。そのたびに恐がった日々がなつかし
い。実家は解体されても記憶は消えない。
エアコンと外気の混ざる場所にいるような心で
まだ君を待つ 岩倉市 古橋 紗弓

年とれば髪質変わると嘆く人猫も一緒と慰めら
れて 松江市 犬山 純子
初もぎが去年より七日早まりて温暖化うれい桃
畑にたつ 山梨市 田村由利子

駅前マックは青春真盛りその片隅に老生が憩
う 東京都 青山 繁
賜わりし茄子は新鮮針刺せば風船のごとパンと
割れそう 埼玉県 松井 恭
「くれぐれもご無理なさらず」梅雨明けの同年
代への挨拶本気 奈良県 藤本 京子
ほおずきの音を忘れて五十年鳴らした姉の新
盆近し 川崎市 長嶋 季伸